

「2ch馴れ初め系」Youtube台本

【内容まとめ】

- ・文字数：17,000文字以上
 - ・形式：2ch馴れ初め／男性視点／オリジナル
 - ・納品形式：Googleスプレッドシート
 - ・トーン（雰囲気）：切なく温かい
-

【1）作品の目的（視聴者に残したい感情）】

視聴者が「胸の奥がじんわり温かくなるような余韻」を感じ、
「過去の恋や家族を思い出す」ような感情を残すこと。
→ 感動・共感・懐かしさを誘う構成を意識。

【2）想定する視聴者】

- 年齢層：20～40代の男女
 - よく見るチャンネル：2ch感動系／馴れ初め／家族・恋愛ドラマ系
 - 興味：過去の恋愛・人間ドラマ・再会・後悔・家族愛
 - 視聴傾向：寝る前・通勤中などに「静かに浸りたい」層
-

【3）作品の雰囲気ルール（3～5項目）】

- セリフは「心の声→行動→情景」の順で描写する
- 登場人物の会話は自然で、無理のないテンポに
- 語り口は淡々としながらも感情の“余白”を残す
- スレ民のコメント（kws、応援、共感）を挟み、共感を誘う

- ラストは“静かな余韻”で締め、説明しすぎない
-

【4）構成の型】

- ① Hook(導入) : 最初の3～5レスで“謎”や“衝撃”を出す
- ② 起 : 登場人物・状況・過去の関係を描く
- ③ 承 : 再会や転機が訪れる
- ④ 転 : 誤解・衝突・真実の発覚など感情のピーク
- ⑤ 結 : 感動または静かな和解
- ⑥ 余韻 : スレ民のまとめ・イッチの心情・静かな締め

タイトル:『彼女が残した“最後の手紙”に、10年前の約束が隠されていた』

Hook - 届いた“ありえない”手紙

- #1: 名無しさん@おーぷん
なあ、聞いてくれ。10年前に亡くなった彼女から、今日、手紙が届いた。
- #2: 名無しさん@おーぷん
は？ 亡くなったのに？ 怖いわ。kws
- #3: 名無しさん@おーぷん(イッチ)
ポストの奥に、古びた封筒。差出人は—藤川沙耶。あいつの字だ。
- #4: 名無しさん@おーぷん
鳥肌立った。消印はいつ？
- #5: 名無しさん@おーぷん(イッチ)
2015年3月。あいつが入院してた頃。震えて、すぐには開けられなかった。
- #6: 名無しさん@おーぷん
そりゃ無理もない。で、開けたのか？
- #7: 名無しさん@おーぷん(イッチ)
まだだ。机に置いたまま、呼吸だけが速くなる。心だけ、10年前に戻った。

#8: 名無しさん@おーぷん
この時点で泣ける。続けて。

#9: 名無しさん@おーぷん(イチ)
封筒の紙は少し黄ばんで、端がほつれてた。触れる指先が、勝手に震えた。

#10: 名無しさん@おーぷん
開けたいけど開けたくない、あの感じ分かる。

#11: 名無しさん@おーぷん(イチ)
深呼吸しても、胸が詰まる。俺は椅子に座り直して、ゆっくり封を切った。

#12: 名無しさん@おーぷん
いよいよだな……。

起 - 10年前の春、そして約束

#13: 名無しさん@おーぷん(イチ)
読む前に、思い出したい。俺と沙耶の始まりを。心を落ち着かせたかった。

#14: 名無しさん@おーぷん
回想パートか。頼む。

#15: 名無しさん@おーぷん(イチ)
10年前の春。新学期の教室、窓際二列目。席替えて、俺と沙耶は隣になった。

#16: 名無しさん@おーぷん
青春の匂いする。

#17: 名無しさん@おーぷん(イチ)
あいつは声が少し高くて、笑うと目尻がくしゃっとなる。誰とでも同じ距離で話した。

#18: 名無しさん@おーぷん
人気者タイプだな。

#19: 名無しさん@おーぷん(イチ)
昼休み、ノートを忘れた俺に、迷わず自分のを差し出した。「返さなくていいよ」って。

#20: 名無しさん@おーぷん
天使。

#21: 名無しさん@おーぷん(イチ)
放課後、屋上。風の匂い。遠くに海。俺は、借りっぱなしのノートを握って立ってた。

#22: 名無しさん@おーぷん
情景ええな。

#23: 名無しさん@おーぷん(イチ)

沙耶がフェンスにもたれて言った。「ねえ、10年後、またここで会おう。笑ってさ」

#24: 名無しさん@おーぷん

約束きた。

#25: 名無しさん@おーぷん(イチ)

俺は笑って頷いた。「絶対忘れない」そう言い切った。夕陽が、俺たちの影を重ねた。

#26: 名無しさん@おーぷん

尊い。

#27: 名無しさん@おーぷん(イチ)

それからの毎日は静かに進んだ。朝の挨拶、廊下でハイタッチ、帰り道の他愛ない話。

#28: 名無しさん@おーぷん

平和な日常ほど、あとで効くんだよな。

#29: 名無しさん@おーぷん(イチ)

秋、文化祭の帰り。雨上がりの匂い。沙耶は咳をして、少しだけ足を止めた。

#30: 名無しさん@おーぷん

伏線の匂い……。

#31: 名無しさん@おーぷん(イチ)

冬に入る頃、保健室で見かける回数が増えた。本人は笑って、「大丈夫」しか言わない。

#32: 名無しさん@おーぷん

“その言葉”が一番大丈夫じゃない。

#33: 名無しさん@おーぷん(イチ)

卒業間近の午後、急に言われた。「私ね、転校するんだって」笑ってるけど、声が震えた。

#34: 名無しさん@おーぷん

うわあ……。

#35: 名無しさん@おーぷん(イチ)

最後の放課後、屋上。風は冷たいのに、夕陽はやたらに綺麗だった。「10年後、またね」

#36: 名無しさん@おーぷん

こっちまで胸が痛い。

#37: 名無しさん@おーぷん(イチ)

数週間後。黒板の隅に、担任の字。沙耶が病気で、もう帰ってこないと告げられた。

#38: 名無しさん@おーぷん

……マジか。

#39: 名無しさん@おーぷん(イチ)

音が消えた。椅子のきしみだけが遠くで鳴ってた。俺は何も言えなかった。

#40: 名無しさん@おーぷん

言葉、出ないよな.....。

#41: 名無しさん@おーぷん(イチ)

「また10年後」あの約束だけが、胸に残った。叶わないまま、時間だけが進んだ。

#42: 名無しさん@おーぷん

つらい。続けてくれ。

#43: 名無しさん@おーぷん(イチ)

手紙の紙に戻る。指先で端を押さえる。心は、まだ屋上の冷たい手すりにいる。

#44: 名無しさん@おーぷん

すでに名作の予感。



承 - 再び動き出す“時間”

#45: 名無しさん@おーぷん(イチ)

俺は一度、目を閉じた。息を整える。紙の匂いとインクの気配。静かに読み始めた。

#46: 名無しさん@おーぷん

心の準備OK。

#47: 名無しさん@おーぷん(イチ)

「約束、覚えてる？ 私は灯台の上で待ってるね」——丁寧な字。行間に、体温が残ってる。

#48: 名無しさん@おーぷん

灯台.....。場所の特定きた。

#49: 名無しさん@おーぷん(イチ)

灯台。実家からバスで20分、海沿いの小さな白い塔。中学の遠足で行って、二人でも行った。

#50: 名無しさん@おーぷん

思い出の場所か。

#51: 名無しさん@おーぷん(イチ)

胸が詰まる。椅子から立ち上がる。窓の外、春の風。薄曇りの空が、ゆっくり動いていた。

#52: 名無しさん@おーぷん

環境描写、刺さる。

#53: 名無しさん@おーぷん(イチ)

その夜、実家に電話した。母の声はいつも通り柔らかい。「元気にしてる？」

#54: 名無しさん@おーぷん
お母さんパートすこ。

#55: 名無しさん@おーぷん(イチ)
「沙耶の手紙が届いた」と話すと、母は少し黙って、「その子のお友達、昔来たの覚えてる」

#56: 名無しさん@おーぷん
お？ 伏線つながった。

#57: 名無しさん@おーぷん(イチ)
「高校卒業の頃、女の子が、あなたに渡したいものがあるって。都合が合わなくて帰ったの」

#58: 名無しさん@おーぷん
切ないすれ違い……。

#59: 名無しさん@おーぷん(イチ)
通話のあと、胸の奥がじんわり温かくなった。誰かが、繋いでくれてたのかもしれない。

#60: 名無しさん@おーぷん
やさしい世界……。

#61: 名無しさん@おーぷん(イチ)
週末、電車に乗る。切符を握る手の汗。窓に流れる景色。田んぼ、工場、やがて海。

#62: 名無しさん@おーぷん
旅路の描写いいね。

#63: 名無しさん@おーぷん(イチ)
最寄り駅のホーム、潮の匂い。風が頬を撫でて、遠くでカモメが鳴いた。歩幅が整う。

#64: 名無しさん@おーぷん
五感の描写、最高。

#65: 名無しさん@おーぷん(イチ)
灯台への坂道は、記憶より急だった。息が上がる。掌の中で、封筒の紙が軽くきしむ。

#66: 名無しさん@おーぷん
緊張感たまらん。

#67: 名無しさん@おーぷん(イチ)
ふもとに着くと、ベンチの上に白い封筒。俺の名前。指先で触れた瞬間、世界が静まった。

#68: 名無しさん@おーぷん
来た来た来た。

#69: 名無しさん@おーぷん(イチ)
封を切る。中には二枚の便箋。最初の一行に、あいつの“いつもの口癖”が並んでた。

#70: 名無しさん@おーぷん
泣く準備できてる。

#71: 名無しさん@おーぷん(イチ)

「まず、笑って読んでね。ちゃんと食べてる？ 寝てる？ 約束、覚えてるよね？」——沙耶。

#72: 名無しさん@おーぷん

優しさが刺さる。

#73: 名無しさん@おーぷん(イチ)

便箋の端に小さく、灯台の絵。丸い灯りに、二人の点みみたいな影。あいつらしい落書き。

#74: 名無しさん@おーぷん

その小物描写が心を崩す。

#75: 名無しさん@おーぷん(イチ)

「会えなくても、同じ空が見える。だから、10年後にもう一度、同じ空の下でね」

#76: 名無しさん@おーぷん

名文。

#77: 名無しさん@おーぷん(イチ)

指が震えた。涙が紙に落ちないように、袖で押さえる。風の音が少し強くなった。

#78: 名無しさん@おーぷん

情景が全部つながる……。

#79: 名無しさん@おーぷん(イチ)

文末に追伸。「私の友達にお願いした。ちゃんと届きますように。あなたが笑えますように」

#80: 名無しさん@おーぷん

友達ルート、確定だな。

#81: 名無しさん@おーぷん(イチ)

顔を上げる。階段の下に、人影。こちらを見て、小さく会釈した女の人がいた。

#82: 名無しさん@おーぷん

きた……！

#83: 名無しさん@おーぷん(イチ)

彼女は静かに名乗った。「沙耶の中学からの友達です。ずっと、お渡ししたかったものが」

#84: 名無しさん@おーぷん

尊すぎる展開。

#85: 名無しさん@おーぷん(イチ)

差し出されたのは、小さな封筒と、一枚の写真。卒業式の日、俺と沙耶が笑っている。

#86: 名無しさん@おーぷん

写真はずるい。

#87: 名無しさん@おーぷん(イチ)

写真の裏に、字があった。「笑って、生きて」——たったそれだけ。世界が滲んだ。

#88: 名無しさん@おーぷん
もう泣いた。

#89: 名無しさん@おーぷん(イチ)
友達は言った。「彼女、約束の話、よくしてなんです。10年後のあなたを、信じてました」

#90: 名無しさん@おーぷん
言葉のナイフ.....やさしいやつ。

#91: 名無しさん@おーぷん(イチ)
俺は礼を言って、灯台の階段を上った。心臓の鼓動が、段差に合わせて早くなる。

#92: 名無しさん@おーぷん
クライマックス来るぞ。



転 - 手紙の真実、そして再会(心の)

#93: 名無しさん@おーぷん(イチ)
最上段の踊り場。小窓から差す光が淡い。便箋の二枚目を、ゆっくり広げた。

#94: 名無しさん@おーぷん
深呼吸して読め。

#95: 名無しさん@おーぷん(イチ)
「本当は、言えなかった。私、怖かった。弱る自分を、あなたに見られるのが」

#96: 名無しさん@おーぷん
うっ.....。

#97: 名無しさん@おーぷん(イチ)
「でもね、あなたと約束してから、毎日が少し楽しかった。未来を想像できたから」

#98: 名無しさん@おーぷん
支え合ってたんだな。

#99: 名無しさん@おーぷん(イチ)
「笑って会おうって言ったの、私のわがままかもしれないね。ごめん。でも、お願い」

#100: 名無しさん@おーぷん
涙止まらん。

#101: 名無しさん@おーぷん(イチ)
「あなたが笑って生きてるなら、私はそれでいい。私の“最後のわがまま”を叶えてね」

#102: 名無しさん@おーぷん
タイトル回収、綺麗。

#103: 名無しさん@おーぷん(イチ)

手紙を胸に当てる。呼吸を整える。窓の外、波の白い線がゆっくり連なっていた。

#104: 名無しさん@おーぷん

環境の静けさが沁みる。

#105: 名無しさん@おーぷん(イチ)

ポケットの写真をもう一度見る。制服の襟、歪んだネクタイ、笑い皺。こんな顔、してたのか。

#106: 名無しさん@おーぷん

過去と今が同時に来るやつ。

#107: 名無しさん@おーぷん(イチ)

階段の上から、微かな風の音。鉄の手すりが冷たい。掌の体温で、少しだけ温もる。

#108: 名無しさん@おーぷん

細部の手触り、いい。

#109: 名無しさん@おーぷん(イチ)

「約束、果たしたよ」小さく呟く。声が自分に戻ってくる。胸の奥で、何かがほどけた。

#110: 名無しさん@おーぷん

ここで涙腺崩壊。

#111: 名無しさん@おーぷん(イチ)

そのとき、雲が切れて光が差した。白い壁が柔らかく明るむ。風が少しだけ暖かかった。

#112: 名無しさん@おーぷん

演出的すぎない自然な光、好き。

#113: 名無しさん@おーぷん(イチ)

踊り場の床に座り込んで、目を閉じた。息を深く吸う。潮の匂いが、肺の奥まで満ちる。

#114: 名無しさん@おーぷん

浄化の瞬間だ……。

#115: 名無しさん@おーぷん(イチ)

——そして、思った。人は手紙じゃなく、“想い”で繋がる。紙は、その形の一つにすぎない。

#116: 名無しさん@おーぷん

名レス出た。保存した。

#117: 名無しさん@おーぷん(イチ)

窓の外、風見鶏がわずかに揺れる。遠くの水平線、白い小さな船。世界は静かに動いていた。

#118: 名無しさん@おーぷん

世界が優しく見える。

#119: 名無しさん@おーぷん(イチ)

ゆっくり立ち上がる。便箋を封筒に戻し、胸ポケットにしまった。心臓の上に、彼女の字。

#120: 名無しさん@おーぷん
言い回しが沁みる。

#121: 名無しさん@おーぷん(イッチ)
階段を降りると、さっきの友達がベンチに座っていた。ハンカチを握り、笑ってくれた。

#122: 名無しさん@おーぷん
彼女の友達、ほんと良い人。

#123: 名無しさん@おーぷん(イッチ)
「渡せてよかった」と言って、空を見上げた。「あの子、きっと今日を待ってたと思います」

#124: 名無しさん@おーぷん
その一言でまた泣く。

#125: 名無しさん@おーぷん(イッチ)
礼を言って別れた。坂道を下りる足取りは、来た時より軽かった。風が背中を押した。

#126: 名無しさん@おーぷん
転から結へ、綺麗に繋いだ。

#127: 名無しさん@おーぷん(イッチ)
最後に灯台を振り返る。白い塔の天辺に、小さな光。空は、少しだけ青を取り戻していた。

#128: 名無しさん@おーぷん
絵が浮かぶわ。

結 - 静かな再生と、約束のかたち

#129: 名無しさん@おーぷん(イッチ)
帰りの電車。窓に映る自分の顔は、思ってたより柔らかい。肩の力が、少し抜けていた。

#130: 名無しさん@おーぷん
変化がちゃんと描けてる。

#131: 名無しさん@おーぷん(イッチ)
座席の揺れに合わせて、ポケットの中の封筒が軽く触れる。鼓動と同じリズムで、安心する。

#132: 名無しさん@おーぷん
細部の安心感、大事。

#133: 名無しさん@おーぷん(イッチ)
写真の裏の「笑って、生きて」を何度も読む。文字の端が少し擦れて、やさしい角になった。

#134: 名無しさん@おーぷん
“触れた時間”が見えるな。

#135: 名無しさん@おーぷん(イチ)

駅に着いて、夜風。自販機の灯り。缶コーヒーの温度。掌のあたりだけ、冬が遅れてる。

#136: 名無しさん@おーぷん

情景が映画。

#137: 名無しさん@おーぷん(イチ)

家に帰って、机の引き出しからアルバムを出す。封筒ごと挟む。彼女の居場所を作った。

#138: 名無しさん@おーぷん

その表現、好きだ。

#139: 名無しさん@おーぷん(イチ)

母にメッセージを送る。「会いに行くよ、今度コーヒー飲もう」既読がすぐに二になった。

#140: 名無しさん@おーぷん

日常へ戻る導線、尊い。

#141: 名無しさん@おーぷん(イチ)

翌朝、カーテンの隙間から光。やや冷えた床。ケトルが小さく鳴く音。コーヒーが香る。

#142: 名無しさん@おーぷん

環境→生活の回復、いい。

#143: 名無しさん@おーぷん(イチ)

マグの湯気を見ながら、ふっと笑った。俺はもう、「また10年後」を待つだけの人じゃない。

#144: 名無しさん@おーぷん

名言きた。

#145: 名無しさん@おーぷん(イチ)

スマホのカレンダーに、小さくチェック。「海」って予定を入れる。行く理由は、もう十分だ。

#146: 名無しさん@おーぷん

未来志向の締め、良い。

#147: 名無しさん@おーぷん(イチ)

出勤の支度をしながら、窓辺の写真に目をやる。制服の俺が、今の俺に笑いかけている。

#148: 名無しさん@おーぷん

時間が抱き合った。

#149: 名無しさん@おーぷん(イチ)

玄関で靴紐を結ぶ。深呼吸。ドアを開けると、春の空気が柔らかく胸を満たした。

#150: 名無しさん@おーぷん

生きてくれ、って声が聞こえる。

#151: 名無しさん@おーぷん(イチ)

鍵を回し、ポケットを軽く叩く。胸の奥で、紙の感触。手紙は、今日も俺の心臓の上にある。

#152: 名無しさん@おーぶん
ラスト前の一撃、良き。

#153: 名無しさん@おーぶん(イチ)
彼女が残した“最後の手紙”は、俺の未来を動かした。だから、俺は笑って、生きていく。

#154: 名無しさん@おーぶん
(了)